



まちファン

3号

2004年11月1日

ファンドは 輝くまち・高知の 宝さがし。



「まちファン」誕生から1年が過ぎました。
 応募した市民も、審査する運営委員も、初めての公開審査会。
 半年たって、すでに目に見える成果があがっていることに
 驚いた中間発表会。
 予想もしなかった台風によって延期になった最終発表会。
 そして…再び公開審査会を迎えました。
 応募者にも運営委員にも余裕が感じられる2回目でした。

いろいろな視点でまちづくりに取り組むひとがいる。
 そんなひととひとをつなぐ、紡ぐ、拓く。
 心の中であたためていた形から、誰もが見える形へ。
 ひとりの〇〇から、みんなの〇〇へ。

ファンドは「輝くまち・高知」の宝さがし。
 「まちファン」はこれからも
 そんなファンドを見守り続けます。



● contents ●

2004年度公益信託高知市まちづくりファンド 第2回公開審査会

- 2 公開審査会の流れ/結果表
- 3 プレゼンテーション
「まちづくりはじめの一歩」コース
「まちづくり一歩前へ」コース
- 7 第2回公開審査会アンケート結果
- 8 参加者の声/第2回公開審査会を終えて

2003年度公益信託高知市まちづくりファンド 第1回最終発表会

- 9 最終発表会の流れ
プレゼンテーション
「まちづくりはじめの一歩」コース
- 10 「まちづくり一歩前へ」コース
- 12 第1回最終発表会アンケート結果(助成先団体)
- 13 第1回最終発表会アンケート結果(参加者)
- 14 第1回最終発表会を終えて
まちづくりファンドふりかえり座談会
- 15 運営委員の紹介
- 16 公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定

2004年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 第2回 公開審査会

公開審査会の流れ

2004年8月1日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド・第2回公開審査会」には、応募団体、一般合わせて、約70名が参加しました。「まちづくりはじめの一步」コースには4団体の応募があり、うち3団体の事業が、また「まちづくり一歩前へ」コースには13団体の応募があり、うち9団体の事業が助成を受けることになりました。公開審査はそれぞれ次の過程で行われ、下記結果表のとおり決定しました。

「まちづくりはじめの一步」コース



1 審査

事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会の場で発表



2 団体の活動紹介

助成対象となった団体による事業内容の説明



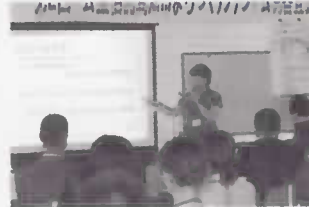
「まちづくりはじめの一步」コース結果表

	グループ名	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1	育児サークル「トトロ」	5	5
2	カフェナビプロジェクト	5	5
3	こうち学生ボランティアネットワーク「ボラの会」	5	5
4	CSネットワーク	5	—

「まちづくり一歩前へ」コース結果表

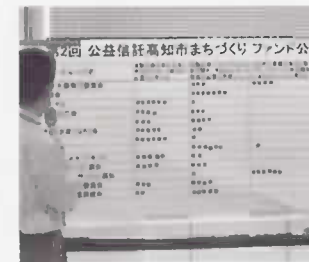
	グループ名	活動内容がまちづくりの助成対象と考える	活動内容についてもう少し話を聞き、助成がふさわしいか判断したい	社会的に意義のある活動だが、助成趣旨にはなじみにくい	今回の助成対象として推薦する	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1	大高坂松丸祭実行委員会	■	■	■		30	—
2	はりまや薬業	■	■			30	—
3	田中きよむゼミ	■	■		●	17.6	17.6
4	若草ほのぼのの会	■	■		●	13.2	13.2
5	RinK	■	■		●	30	30
6	泰山の竹林と友達になるう会	■	■		●	30	30
7	いこうちや	■	■		●	18.2	18.2
8	はりまや会	■	■	■		30	—
9	子育てサークル みかづ・キッズ	■	■		●	10	10
10	高知演劇ネットワーク・劇会	■	■		●	30	30
11	NPO法人 ゆうきりサイクル高知	■	■	■		30	—
12	若者によるまちづくり委員会	■	■		●	30	30
13	はりまや橋商店街振興組合	■	■	■	●	30	30

「まちづくり一歩前へ」コース



1 プレゼンテーション

各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答



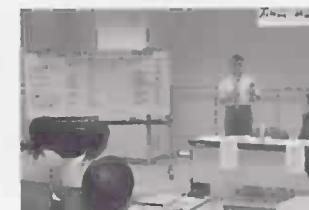
2 一次判断

各運営委員が各応募事業についてそれぞれ次の3段階の判断をする。
a) 助成が必要だと考える
b) 内容についてもう少し話を聞き、判断したい
c) 社会的に意義のある活動だが、助成趣旨にはなじみにくいと判断する



3 質疑

一次判断でb) c)が多い事業への質疑応答



4 最終判断 助成事業・金額の決定

各運営委員が6事業を選び、助成対象として推薦する。結果、複数の運営委員から推薦された事業が助成先に決定。助成金額は申請額と同額で、減額はなし

「まちづくりはじめの一歩」コース

プレゼンテーション

活動テーマ

子育てを楽しくするための支援活動



group.1

育児サークル「トトロ」

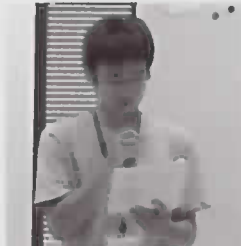
子どもをどう育てたら良いかわからず、地域で孤立しているお母さん方が現代は多くなっている。三里地区にお母さんが安らげる場所、子どもが遊べる場所をつくり、自信をもって子育てしてもらおうための支援をしたい。子どもたちが元気に生き生きと「みんなが住みたくなる高知」を築いていけるようにしたい。

<運営委員> (政波井)

子育て中はなかなか外に目が向きにくい、母親が一人で悩みを抱え込まないように、ストレス発散の場をつくっている。また、よい情報を共有し、地域を巻き込んで「まちづくり」に一歩踏み出そうとしている。会費制の悪い面だけ考えず、「会費を払ってでも参加したい」魅力あるサークルになるよう頑張りたい。

活動テーマ

観光案内商店街



group.2

カフェナビプロジェクト

観光客が休息をとるために利用する飲食店において観光案内を行い、地元の人と話せる機会をつくりたい。商店街の飲食店が案内所の機能をもつことにより、観光客に対する意識も高まり、リピーターの増加にもつながる。地域社会と観光客とのコミュニケーションを観光資源とし、観光客が安心して街を歩き、高知の住民の温かさに触れることができるようにしたい。

<運営委員> (藤塚)

町を案内する際の市民と観光客とのコミュニケーションを大切にしてもらいたい。また、まちなかにある隠れたお宝地図の作成や、観光客に接するときのお店のマニユアルづくりもぜひ実現してほしい。

活動テーマ

活動したい学生のみんなとボランティアニーズのマッチングをはかって、げんきな街こうちの力になる！



group.3

こうち学生ボランティア「ボラの会」ネットワーク

高知県内にはボランティアをしたい学生や、ボランティアニーズをもつ団体、組織がたくさんある。その架け橋となるよう情報の収集、提供を行いたい。またこういった仲介的役割のほか、コーディネーションや学習イベント「こうち学生ボランティアキャンパス」の開催を行っている。これからは学生会員をもっと増やし、募集情報の窓口として拡大していくよう宣伝活動にも力を入れていきたい。

<運営委員> (海老塚)

ボランティア活動を志す学生さんたちに情報提供とコーディネートをしたい。それは若い人たちがボランティアに入っていくための環境整備をするためにも意義ある取り組み。今後は単に人材派遣だけでなく、若い人たちのボランティア人口の拡大がまちづくりにつながるような視点で、活動が広がっていくことを期待している。

「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション

活動テーマ

第2回大高坂松王丸祭

group.1

大高坂松王丸祭実行委員会



高知市開発の祖、郷土「土佐」の偉人として、現在の高知城に一番先にお城を建てたのが大高坂松王丸。山内一豊築城以前の古い歴史があることを知って

もらい、歴史と文化のまちづくりを進めたい。今年も引き続き第2回大高坂松王丸祭を開催するが、大高坂城展を行い、皆さんが描いた大高坂のお城を見てもらおうと思う。お持ち帰り頂くお土産として、「松王丸まんじゅう」というものを作り、ぜひこれを郷土のおまんじゅうとして、お菓子屋さんで売り出してもらいたい。今年は、家紋を抜いた横断幕の立派なのほりを作り、立てたいと考えている。

Q&A

Q: イベント以外で、他にどんなことを考えているか?

A: 社会科の教科書にも載っているので、今年はチラシを各小学校や中学校の子どもたちに配れるようにしたい。こういうことで少しずつ、松王丸が分かってもらえたらいいと思う。普段の活動も地道にやっていきたい。松王丸に関する歴史の勉強会を開いたり、小学校への出前講座もこれから考えていかなければならないと思っている。

運営委員 (藤塚)

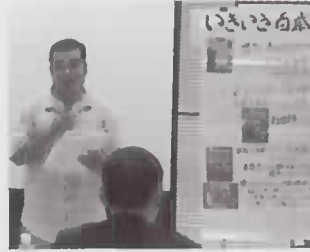
前回の実績もあり、お祭りが地域に根ざしてどのように発展していくかに、多くの委員が注目した。事業の中には、地域の歴史教育への効果や、おまんじゅうを地域の名産に考えるなど、まちづくりに寄与するところもあり、今後の活動に期待したい。

活動テーマ

いきいき百歳体操、健康相談と文化教室

group.2

はりまや楽舎



はりまや町で昨年12月より、デイサービスセンターとグループホームを営業。地域交流スペースとして皆さんに十分活用して頂き、健康づくりの一環として、

4月より高知市保健所健康づくり課のご指導のもと、いきいき百歳体操を実施、32回を迎えた。心身全体の筋力アップを図り、移動時の転倒を予防するとともに、体操前の鍼灸(しんきゅう)マッサージ師による健康相談を行うことにより、肉体的、精神的ストレスの緩和も図られる。いきいき百歳体操は週2回、無料で行っており、地域の皆さんの体力の向上と、心身ともに健康で安心なシルバーライフを送れるようにする。

Q&A

Q: まちづくりというのが少し分かりにくい、どこまでが営業で、どこからがボランティアか?

A: 我々のコンセプトは介護予防ということで進んでいる。基本的には利用後、卒業していく形で、高齢者の方に頑張ってもらいたい。事業との棲み分けが見えにくいということだが、鍼灸(しんきゅう)マッサージ師の契約の費用を少し経費補助してもらいたいと思ひ申請した。体操自体はボランティアなので、地域の方に利用してもらうこともできる。

運営委員 (堀)

応募団体は、北街地区を中心に、介護福祉の場で活動されており、心強く思っている。この取り組みも高齢社会のまちづくりとして、新しいひとつの形であると思う。ただ、ファンド決定にあたり、助成金の多くが講師謝金と考えられ、継続的な謝金面を考慮すると、地域の掘り起こしによるボランティア、または市・ボランティア協会等の連携と協力が望まれる。

group 7 田中きよむゼミ



大学でも地域貢献ができるのではないかとということで、3年前から少年・少女のサッカー教室を開き、指導をしている。

ふれあいスポーツ広場では、障害をもった人たちとスポーツを通して触れ合い、まだ気付いていない可能性を引き出して、人生に大きな希望をもってもらい、自立支援を促したいと思う。またスポーツはアスリートにしかできないと思われがちなので、その考えを排除させたい。障害の有無に関係なく、一緒に、真剣に、思いきりプレーできるスポーツを求めたい。

Q&A

Q：単年度計画のような気がするが、その活動に対して協力体制はあるか？

A：活動仲間はサッカー部員とゼミの生徒。教育学部の教員養成課程や、福祉に関して勉強している人ばかり。このふれあいスポーツひろばの活動がうまくいけば、将来的にも高知に残り、活動を続けていきたい。知り合いに知的障害者のサッカー日本代表のコーチをしている方がいるので、その方にお話をして、いろいろ助言してもらおうと思う。

運営委員（海老塚）

小さい頃から特技のサッカーを活かし、スポーツを通じて障害を持つ人たちとふれあい、自立支援の一助になりたい。そして、ノウハウやメソッドが確立できれば、一生の仕事として打ち込んでいきたい。しっかりとした目的意識をもつ恒川君の爽やかで若らしい発想と意欲に拍手！仲間を増やしてガンバレ！

group 8 若草ほのぼのの会



高齢者が一日中テレビ漬けでいる現状を放置しておくのは良くないと思い、地域の人による、地

域の高齢者の為の、地域のデイサービスということで、町内会、あるいは自治会、老人クラブ、地域の各会で協力して行っている。社会的な孤立感の解消や、心身の機能低下を予防していきたい。月替わりのイベントや教室をいろいろと計画しており、老人クラブを中心にお知らせしている。また町内全世帯に配布する広報紙も、年1回発行している。

Q&A

Q：これまで費用面は、どうしてきたか？

A：介護センターさんに送迎用のバスを協力してもらったり、後は自分たちの持ち出し。

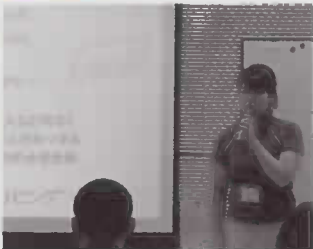
Q：今年度助成金が出ても、来年度助成金が出なければ、また持ち出しになるが、自己負担なしでやっていけるような方法は考えているか？

A：入浴、もちつき、もち米代は、参加者からはいただけない。ただ、高齢者に負担増になるようなことはやりたくないと思う。

運営委員（玖波井）

地域が丸となって高齢者を支えている。多くのメニューをこなし、何よりも楽しみながらやっている様子がかげえる。持ち出しが多くなると長続きしないので、会費を弁当代+100円集めるなどの工夫が必要。参加者が延べ500人程いるから運営費につながると思う。「楽しむ」から「組織運営」へ、もう一歩進んでほしい。

group 5 RinK



RinKは、Relation in Kochiの略。「学生エディターが発信！まちびと本」は、高知発、学生が作るフリーペーパー（発行予定・年3回）で、街

のちょっと面白い情報や、野望に燃えている人、あるいは人生の師匠に出会えるような本を若者が作るというもの。フリーペーパーが、街と人との結び目になり、若い人がやる気をもって、夢をもって生きていく。ということで、若者の就職率の低下や、退職率の高まり、フリーターの増加という問題も解消されるのではないかと考える。

Q&A

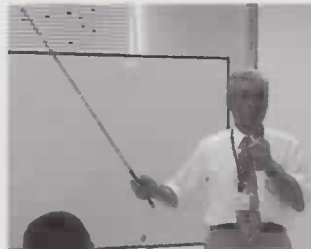
Q：まちの元気な人を若者の目から見て、フリーペーパーで情報発信するということと、まちづくりとは、どういうつながりになるのか？

A：まちづくりは人づくりだと思う。まちづくりの活動も、若者への浸透が少ない。学生も、学校の中で活動をしたとしても、それがなかなか外へ出ない。地域の人と同じような活動をしているのに、両方とも知らないという問題がある。まちで誰でも取っていけるので、発見がある。いろんな人を知ることができる。まちづくりにつなげるための若者づくりをしたい。

運営委員（増田）

フリーペーパーの需要と情報の多様化により、読者の知りたい情報をどの程度把握していくかという問題も、今後取材をするにあたって重要な課題になると思う。そのためには、編集スタッフのビジョンであったり、広域情報を常に入手するネットワークづくりを、この機会に若い力と知恵を集結し、チャレンジしてみたいと思う。

group 6 秦山の竹林と友達になるう会



竹と共に生きる。竹を敵にするのではなく、友達としてとらえ、活用する。その中から生きることを見だし、地域の活性化を図る。そして子どもたちの未来

を輝く未来にしたいというのが私たちの願い。地域の里山を住民の手で保全する活動を通じ、里山保全への関心を高めるとともに、地域の大人と子どもとの交流により、住民相互の和と青少年の健全育成を図りたい。秦山は高知市の里山条例1号に指定され、その展開過程で里山祭りが始まった。そこで広く、里山の竹林、危険性、環境保全を皆さんと共用し、竹林を改善したいと思う。

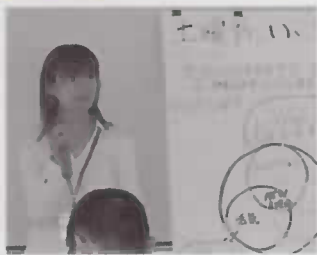
Q&A

Q：自立型のまちづくりで活動を進めていると思うが、現実的に補助金は必要か？

A：定例会は今月で100回開いた。これからも展開をしていくには、今まで頂いている「森と緑の基金」だけではどうしてもやっていけない。私どものささやかな寄付も充てているが、それでも足りない。どうしても継続して、去年以上に頑張りたい。若い人に夢をつなぐためにぜひ、助成を頂きたい。

運営委員（半田）

住民主体による里山保全活動の先駆的な実践。これまで住民の皆さんで積み重ねてきた地域づくり活動のさらなるステップとなれらると思う。「竹との共生」というキーワードに、幅広い年代層の参加が得られ、地域のつながりを強め、さらに元気な秦地域になることを期待している。



土曜市は高知城からひろめ市場の辺りで開催されているが、店に面白い人がいるのに認知度が低く、日曜市の縮小版といった印象で残念に思う。

土曜市の活性化を目標に、いろいろな種類の店を出し、結果的に若者を呼び込むようにしたい。ニュー土曜市の構想として、①店と客、客と客とのコミュニケーションの場を設ける ②特産品に加え、バラエティーに富んだ何でもありな市にする ③高校生には社会勉強の場、大学生には情報発信の場として位置付け、活気をもたせる ということを考えている。

Q&A

Q：四国にもいい市があると思うのに、どうして関西の市を見に行くことにこだわっているのか？

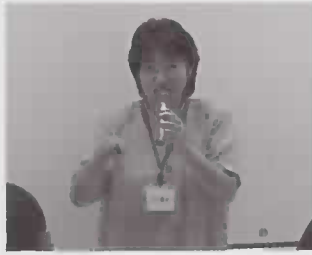
A：特に関西にこだわっているわけではなく、近場を考えている。高知の市を見て、他の県の市も見て、いいところを参考にしていきたい。

Q：継続して実施することについては、どのように考えているのか？

A：高校や他の大学に呼びかけて、継続的に運営を続けていけるシステムを作っていきたい。

運営委員 (堀)

中心街区のまちづくりは住人不在のケースが多く、まちづくりの顔が見えづらいことが、1つの課題であった。若者による土曜市での出会いの場づくりは、学生が取り組んだ政策立案コンテストの「土曜市の活性化」が元になり、実現の場として提案されたもので、中心街区の活性化。若者のチャレンジワークになる。



空洞化しつつある中心街を、店と店、人と人との交流により「わが街」を見直し、その魅力を再発見。地域への愛情が生まれ、住み良い、働きやすい街へ変え

ていこうとする活動が生まれる。その情報を全市に発信することにより、具体的な呼びかけができるので、それがまた新たなイベントの発生となる。地域の情報や問題点を持ち寄って、討議する場を作り、お互いの技術を活用してイベントを企画していきたい。またその為にも、是非「はりまや新聞」発行の継続をしていきたいと思う。

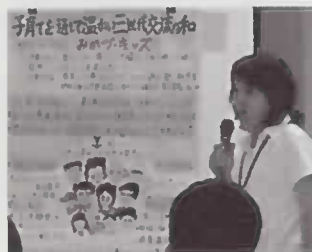
Q&A

Q：「はりまや新聞」は最初手書きに近くて、はりまや橋商店街の温かさが伝わってきた。カラーでなくても、コストを下げてやっていける方法はあるのではないかと？

A：はりまや会でも、そういう意見が出ていたので、2色に戻してやってみようと思う。まちづくりと新聞の絡みは、はりまや商店街だけではなく、はりまや町全域に広げていきたい。新聞は今後、2色でいけるように努力するが、3号だけ助けて頂けたらありがたい。

運営委員 (増田)

最近では町中、至る所に情報誌が置かれ、情報だけが溢れている。それ故、多くの情報の中から選ばれるために見やすさが重要になってくる。しかし、見やすい≠制作費がかかってしまうという点においては、将来的に費用面で追い込まれることも考えられる。今後、協力企業からの情報とネットワークで、町に根付いた情報誌になることを願っている。



初月地区は新興住宅団地。賃貸マンションが増える中、小さな子どもをもつ世帯数も多い。その中で転勤族も多く、孤立しないよう情報収集や地域の人々

との関わりを求めている。一方で昔から地域に定住している人々も少なくない。3世代にわたる地域ぐるみの温かい交流を大切に、将来を担う子どもたちを育成して、町の活性化をはかりたい。〈みかづ・キッズ〉は0歳から就園前までの子ども同士・保護者同士の触れ合いの場。孤立しがちな保育者の絆づくり、助け合い、子どもの社会性の向上、情報交換など、地域ぐるみの交流を目指している。

Q&A

Q：助成金だけでは継続しない。今後の財源はどうするのか？

A：親子で活動するので、小さい子連れでは活動範囲も限られてくる。この活動にはいろいろな人の協力が必要になる。今後は助成金に頼らず、自立した活動も大事になると思う。私達の活動を知ってもらい、リピーターを増やしていくために、今回助成をお願いした。来年からは、いろんな人との交流と協力で行っていききたい。

運営委員 (増田)

子育てサークルといえは「子育て」中心の活動が主だと思いが、みかづ・キッズについては地域の年寄りも巻き込んだ活動と、定期的な活動内容を見る上で、活動の長期展望を垣間見ることができた。地域に根ざした方向で活動している貴団体においては、今後ともよりいっそう地域ぐるみの子育て支援を目指してがんばってほしい。



「おいしい演劇のあるまちづくり」を目指して2001年に発足。構成メンバーは、現在9カンパニーで、高知の演劇文化の活性化のために手をつなぐ若手で

構成されている。私たちがやりたいことは、劇団間の学習交流、学生演劇・高校演劇の支援、市民と演劇を楽しむ考えていくためのアフタートーク、劇評ワークシートの速報、子どもたちとのワークショップ。演劇に関わる人々が様々な立場や視点から互いに情報交換することによって、高知における芸術・文化としての演劇をより豊かに発展させ、また地域に貢献したいと思う。

Q&A

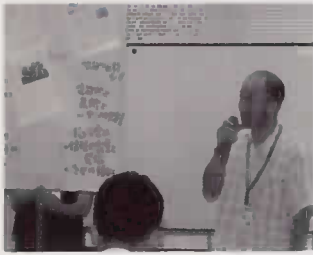
Q：ワークショップはどうしても持ち出しが多くなる。演劇を通してコミュニケーション能力が高まるという話を聞くが、市や行政にもちかけて必要性を提案してはどうか？

A：さまざまな活動の中で、個人に負担がかかりすぎている。まちのアーティストというのは人材だと思う。私たちはその人材とまちとをコーディネートしたり、つなぐ役割をし、「芸術」、「演劇」という言葉でまちに語りかけ、子どもたちを育てていきたいという集まりになっている。また勉強もしていきたい。

運営委員 (海老塚)

惜しくも選にもれた前回は、団体の組織や活動が今ひとつよく分からなかったが、今回は組織や目標も明確になり、すっきり力がついてきた。この意欲を持続させて、活動を通じて演劇人口の裾野を広げるとともに、そうした活動がまちづくりに広がっていくような取り組みを期待している。

group 11 NPO法人 ゆうきりサイクル高知



設立から3年。昨年はエコ農園が2カ所できた。これまで各種セミナー、自主学習会の開催、エコ農園づくりに取り組み、少しずつ輪も広がりがつある。

今年度は、特に広報(会報とホームページ)を充実させ、取材活動による相互の情報交換、連携化などの効果も期待したい。ホームページについては、15年度にリニューアルしたが、なかなか更新がされていないので、当会から5名ほど有志を募り、専門家に教えていただきながらやっていこうと考えている。定期的に更新したものを発信することにより、結果的に会員の増加につながると思う。

Q&A

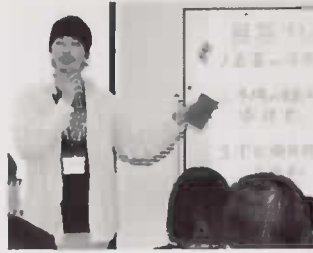
Q: ホームページのことだけではなく、昨年との関係や現在の状況などを説明してもらいたい。

A: エコ農園は進行形で進んでいる。これまで2年間、当会が活動して、広報をあまり的確にやってこられなかった。エコ農園だけでなく、啓発的なことをやっていきたい。生ゴミを分別して、たい肥化を考えている。県内外の事例などを取材し、ホームページに載せて発信し、問い合わせにも対応していけるようにしたい。会報も入れて、エコ農園の様子なども取り上げていきたい。

運営委員 (半田)

市民活動団体の課題のひとつである「情報発信力」の強化をテーマとした企画だったが、助成には至らず残念だった。情報技術に長けた人材の活用や他団体とのネットワークなど、他の方法での課題解決に取り組んで頂けたらと思う。

group 12 若者によるまちづくり委員会



「若者」、「冬場の観光」、「中心商店街」の活性化を目指している。若者の活性化は、ストリートダンスを通じて、楽しみながらやりたいことをきちんとやり、目

標をもって上を目指していきたい。2月の観光開き後、3月にイベントを開くことにより、冬場の観光の活性化を図りたいと思う。中心商店街の活性化としては、街でのストリートダンスの練習を通じて、中心商店街を利用するお客さまを増やしていきたい。練習後も地域の美化に努めており、社会との関わりとして、老人ホームへの慰問を行っている。また子どもたちとの関わりも深めていきたいと思う。

Q&A

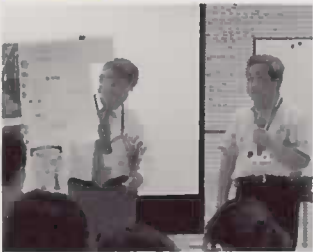
Q: 練習する時間帯は夜間になると思う。まちの中で練習するわけにもいかないのではないかな?

A: 市内に、空きテナントが無いわけではないが、僕らだけでは、なかなか貸してもらえない。そこで、窓口をつくりたいと思う。例えば、障害者に教えていくという取り組みもやってみたいが、やはり若者ばかりでは信用されない。いろいろなワークショップを増やし、こういうことを通じて、もっと大きくしていきたい。高知流のものをつくりたい。

運営委員 (堀)

「ストリートダンスでまちづくり」——地域住民を主にしたまちづくりをイメージする側としては、正直とまどいがあった。ただよさこい祭りを育てた高知、中心商店街の次世代を担う若者と住民による自発的な取り組みであり、若者による「ダンスでまちづくり」も良い。大きく育つことを楽しみにしている。

group 13 はりまや橋商店街振興組合



オープンになった商店街で、いろんな人が集まれば何かが生まれる。はりまや橋商店街の歴史を振り返ることにより、商店街を身近に感じてもらい、コミ

ュニティ広場となるよう目指していきたい。今回のテーマとして、高校生の時から約1,000枚の記録を残している人がおり、それを活用して、まちの活性化に利用できるのではないかと、試みに40枚ぐらい、商店街のアーケードの柱に張ってみた。すると結構そこから話が弾んだり、広がりがあった。それを本格的にやれば、もっと人が集まり、いろいろな話が出るのではないかなと思う。

Q&A

Q: 発展性を考えると、例えば写真の恒久展示をして更に生かすなど、はりまや橋というお宝とうまく結び付け、本当のまちづくりに生かしていくような工夫があってもいいと思うのだが、どうだろうか?

A: 恒久的なもの、そういうことも考えているが、お金をかけずに効果をあげるということで、ローテク、ローコストでやりたい。写真提供者の許しを得たら、例えばホームページに画像を載せることもできると思う。

運営委員 (藤塚)

歴史的な町並みの多くない高知市において、過去の町並みを写真でふりかえることは大きな意義がある。期間中の展示だけでなく、恒常的に展示することで、町並みについて考え、語り合う人々が増えることを期待したい。



① 公開審査会を何で知りましたか。

- 運営委員会からの案内 (7) ■ 新聞 (0)
 - ホームページ (2) ■ 最寄りのふれあいセンター (1)
 - センターだより「えぬびいOh!」(2)
 - 最寄りの四国銀行支店 (0) ■ その他 (14)
- その他 → ゼミ・サークル (4) 仕事関連 (2)
 知人・友人 (2) まちづくりファンド (1)

② 公開の場で審査することについて、どう思いますか？

よいと思う (25) よくないと思う (0)

☞ よいと思う

- 審査員以外の意見が聞ける
- 運営委員の見解も聞くことができ、団体の運営力も見ることができる
- 助成理由などが明確になる
- 興味をもつ人が自由に参加でき、審査状況も知ることができる
- 審査の透明性
- 公平性が保たれる
- 紙や企画だけでは、本物の中身はわからないので良い
- 企画への理解が深まる
- 分かりやすい
- 他団体との交流が広がる
- 他の団体の活動にも触れられる
- 各団体の特徴が分かる
- 知らない人への周知ができる
- いろいろな団体の意見が聞ける
- 他の団体についての意見も聞け、参考になる
- 熱心さが直接伝わり、好感がもてる
- 納得できる
- 一般参加者の質問や団体への応援ができる
- 自分たちの考えを知ってもらえる

③ 今日の審査会について、どう思いますか？

よいと思う (21) よくないと思う (1)

☞ よいと思う

- 発表者、質問者の声を聞くことができる
- 助成理由などが明確になる
- 今後の展開のアドバイスがあり、良かった
- 意見交換がしっかりできていた
- 審査の透明性
- 公平性が保たれる
- 企画への理解が深まる
- 分かりやすい
- 4項目に分けての審査が分かりやすかった
- 直接、応募者に質問ができ、紙面では分からないことが見えて良い
- 理解を深められる
- シールを貼って結果を出すところが分かりやすくて良かった
- 皆が納得できている
- プレゼンを聞くだけでも面白い
- 応募した団体同士で応援するのが面白かった
- ドキドキした。テレビチャンピオンみたいだった

☞ よくないと思う

- 「はじめの一歩」の1分は短く感じる
- プレゼンの時間がもう少しあってほしいかと思う

④ あなたの年代をお教えてください。

10歳代 (0) 20歳代 (7) 30歳代 (8) 40歳代 (5)
 50歳代 (4) 60歳代 (0) 70歳代以上 (1)

⑤ 参加されたあなたの立場をお教えてください。

- 発表者 (6) ■ 発表団体の一員 (5)
- まちづくりに関心のある一市民 (7) ■ 行政職員 (3)
- 専門家・コンサルタント (0) ■ 取材 (1) ■ その他 (6)

自由記述

〈感想〉

- 最後の条件付き助成は良かった
- これからの自分のやっていくことの参考になった
- 顔見知り同士は挨拶できたが、交流の少ないグループは淋しそうだった。交流会に期待したい
- 皆さんが自分たちの活動に誇りをもって前向きに活動している思いがよく伝わってきた
- 取り組み事例、思いが聞けて、勉強になり良かった
- 地元のために頑張りたいと思う
- いろいろな団体があって、どの団体も良いプレゼンテーションだった
- 地域の活性化にとても役立つので、いい事業だと思う
- 助成金獲得を目指しているの、皆の真剣さがよく伝わる
- 高知のまちで、いろいろな人がいろいろな思いで活動している話が聞け、活力がわく
- 公開発表の場をきっかけに、横につながっていく予感がする
- 事業に対する思い入れは多く聞かれたが、「まちづくり」への思い、展望、申請事業の関わりがあまり聞かれず、残念だった

〈改善点〉

- (順延になった) 第1回最終発表会を見てから、(第2回) 公開審査会を見たかった
- もっと地域の補助を使えるのではないかな。あまり横のつながりが無いように感じる
- 審査結果の表の文字が小さくて分かりにくかった。もっと大きな分かりやすい表を望む
- 参加者も審査に何らかの形で参加できないだろうか (決定権のない審査のみでも可)。もっと楽しくなると思う
- 発表後、説明資料をパネルボードに張り出したが、そのコーナーに団体の人が付き、説明に応じてほしい
- もっと知られたら、たくさんの方が応募するのではないかな
- 企画書の作り方云々の話があったが、様式自体に聞きたいことが盛り込まれていないのではないかな。素人や学生さんでもプレゼンがうまくできる手助けとなるものを作ってあげてはどうか
- 申請様式やプレゼン項目として「まちづくりへの寄与と方法、分野」、「今後の展望」を入れてはどうか。一般参加者や参加できなかった人が見ても分かりやすい資料になると思う
- 事業期間が「H16.8.1～H17.7.31」だが、実施時期はそれ以前の取り組みも書くようになっており、支出内訳にも実施時期にリンクしているように見受けられる。8月以前の経費は対象外として確認しないのか
- プレゼンの方法をもっとうまくできるような企画の提示方法案などもあればいいと思う。そうすれば参加者、プレゼン側、審査員にとって、実のある審査会になるだろう



参加者の声

- すごく勉強になった。今回の経験は今後、何かに活かされる!
- 他の団体の企画が聞け、いろんなアドバイスを受けて良かった
- いい機会を与えてもらって良かった。今後の活動も頑張りたい
- こういう審査会、ファンドというのは非常にいい。今後とも是非続けていってほしい
- この企画自体が人と人、活力のある団体をつないでいき、また新しいことが芽生える一歩になりそう!
- 参加団体の発表はよく分かるところ、分かりにくいところ、いろいろあって参考になるね
- 若い人のはきはきしたプレゼンテーションを聞いて、すごく元気をもらえたよ
- パネルの模造紙をみて内容がよく分かった。とても綺麗♪

- 公開審査のフェアなところがすごくいい!
- 活発に自分の力で何かできることはないか、という思いでやっている人が多いね
- 自分のやりたいこと全てを時間内にまとめて言うのは難しい~
- 発表では5分くらい語りたい。審査ももっと時間をかけてもらえると嬉しいな
- 制限時間3分の発表のコツやヒントを教えて~
- 大学生の活動が多くてびっくり!
- ファンドは公正、公平にチャンスを与えてもらえるいい制度だね
- 学生はお金がないので、何かをしたい時にこういうものがあると有り難いですね
- 発表する時、励ましていただいて、元気づけられた。すごく緊張した
- 子育て関係の事業が多いので、これが充実したら高知ももっとよくなりそう
- 発表が不慣れで、うまくみなさんに伝えられず、とても残念
- みなさんがまちづくりを熱心に進めていこうとしていて、頼もしいな

第二回公開審査会を終えて

運営委員長 卯月 盛夫
早稲田大学教授



第二回公開審査会を終えて、二つ感想を述べたいと思います。

一つは、「継続」ということです。昨年助成を受けて、今年もさらに発展した形で企画を出してきたグループが非常に少なかったと思います。もちろん「ゆうきりサイクル」のように、応募していただいたけれども、その展開の形が我々にうまく伝わらず助成に至らなかったものもあります。このまちづくりファンドの一つの目標に「発展性、継続性」を掲げているので、一年間助成を受けてイベントが終わり、解散してしまっただけというのはちょっと寂しい。まあそういうことではないと思いますけれども、その展開がなかなか見えないことは残念です。最終発表会が台風のため延期になり、公開審査会が先になったことも影響しています。あるいは、もう助成金が必要ないような自立の道が見えたということならば、これは大変素晴らしい。いざいざにしても活動に際しては、三年ぐらいの中期計画を立ててほしいと思います。「一年目はこうでした。二年目、三年目はこんな展開をしたい」と聞きますと、運営委員は「助成したい」という気持ちになります。今年助成を受けたグループは、来年「今年はこの点ができなかったけれど、来年はぜひやりたい」、あるいは「今年ここまでできたけど、これをさらにもっとやりたい」というような話をしてください。これは何も「輪を広げて何百人にしてほしい」という意味ではなく、中身の発展、展開が重要だと思えます。それが今回は、見られなかったという印象が一つです。

もう一つは、若者のエネルギーを感じました。

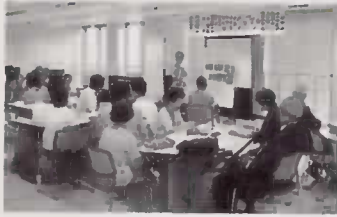
「これは高知らしさのひとつなのかな」と思いますが、学生や若者のエネルギー、そして率直な気持ちに感動いたしました。そういうことを大人、あるいは運営委員は本当にいい形で応援しながら、しかし「注意すべき点もあるよ。こういう点に注意しないと、地元では受け入れられないよ」というようなノウハウも若干もっているわけですので、ぜひお伝えしたい。その点の折り合いをうまくつけながら、もう少し展開できたなら、これは高知のものすごく強いまちづくりのエネルギーになる。このエネルギーは他の地域ではまだまだ見られないし、東京では全然ないですね。これは、高知の大事な個性かもしれないので、これからの成果を踏まえて、来年も継続的に問題提起して頂けたら素晴らしいと思います。

特に「ふれあいスポーツひろば」の恒川さんは、将来の自分のことと、このファンドの接点を真剣に考えていて、僕はとても感動しました。その言葉を頭に置きながら、一生懸命まちづくり、並びに個人的な生き方を決めていってほしいなあとと思います。

そういう意味では、わずかな時間ではありましたが、とても素晴らしい交流と学習の場にもなったと思います。ほかのグループの活動に「面白いな」と思ったら参加してみるとか、あるいは「応援を頼みたいな」ということもあるかもしれませんので、是非この機会に、個人的な知り合いにもなっていただいて、高知のまちづくりの輪を広げて頂けるように期待をしております。

最終発表会の流れ

公益信託「高知市まちづくりファンド・第1回最終発表会」は、台風のため、2004年7月31日(土)から8月29日(日)に順延となり、開催されました。応募団体、一般合わせて、約30名の参加があり、14団体が助成事業の成果を発表しました。



1 プレゼンテーション

1年間の最終報告を、模造紙1枚にまとめ、助成先団体が3分間で発表



2 意見交流

運営委員や参加者からの感想、また質疑に対し、助成先団体が応答

「まちづくりははじめの一步」コース

プレゼンテーション

活動テーマ 第1回大高坂松王丸祭—高知市開発の祖—

group.1 「第1回大高坂松王丸祭」実行委員会



約660年前、大高坂松王丸は現在の高知城がある場所に大高坂城を築いた。歴史と文化の薫るまちづくりへの貢献のため、松王丸祭を開催。資料展示のほか、尺八、ギター、銭太鼓の演奏も行った。松王丸の戦死後、大高坂神社を今の高知市役所の場所に建てたが、第二次世界大戦で焼失。顕彰の碑を市役所入り口の隅から中央の方に寄せていただく活動もした。

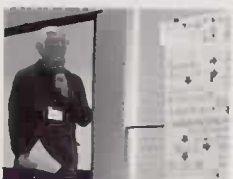
意見交流

Q イベントの反応はどうだったか。社会科教育面で、今の高知城は誰が造り、松王丸がどういう人物だったか、混乱しないような教え方はあるか？

A 反応は「意外」、「知らなかった」というものが多く、皆さんに知らせていくということでは貢献した。第2回松王丸祭は、10月31日(日)高知市役所前の広場で行う。紙芝居をつくる過程で、小学生が見ても分かるような形で、工夫していきたい。

活動テーマ 閉じこもらないで、みんなで“和”になって探そう!! “手作りの作品展”

group.2 つどいの和あざみの



自身が障害をもち、社会的弱者が楽しく活動する場が地域の中で非常に少ないと感じた。趣味を生かした作品展で友達やグループの輪ができることにより、閉じこもりをなくし、地域の活性化も図りたい。第1回目は約500点の作品が集まり、約270名の人に来ていただいた。作品集めのため、学校や保育園を1園ずつ回り、10のグループができた。次年度は15のグループを目標としている。

Q テレビ等の放映で非常に楽しく拝見した。ご自身の体験をもとにされた活動に対し、非常に心強く思う。グループの中からあがったいろいろな意見はまとめたか？

A 第2回に向けて、準備を進めている。

VOICE ●今後、10~15グループ呼びかけをする中で、グループのキーマンになるような人どうもかみ合えば活動も楽になるし、広がりも出てくるのではないかと思う。

●「リアフリー」や、周りのサポートの対策など、いろいろなハードルがあると思うが、その意欲や営業力にはいつも感心する。引き続き、新しい展開を望む。

活動テーマ 住み良い地域づくりをめざして

group.3 木の丸の里愛好会



親水公園には、きれいなスイレンが咲き、畝をつくって泥を運び、クワイを植えた。昨年の稲刈りはカマで上の方だけ刈って、指先でこいて落としたモチカからもち米を作り、一升瓶を使った古式もみすりをして苦労した。他に朝倉家の巨石古墳の作業、山道のセメント打ちなどをして、9月23日(木)の祝日には公園でイベントをする予定。助成により計画的にお金を使う勉強ができ、大変ありがたかった。

Q 計画的にお金を使うことは、ファンドの根幹に関わる意義。どのような点が勉強になったか？

A 絶対要るものから順番に。お金の使い方も懐具合でやっていく。主婦業以上に苦労したこともある。

VOICE ●こういうところが高知市内に徐々に広がっていけば、もっと花を通してのまちづくりが広がると思う。

活動テーマ 旭街のまちづくり (はじめの一步編)

group.4 あさひのわ



15町内会でアンケートの協力をしていただいたが、町内会は各町内ごとの活動をしており、理解が得られなかったり、総会時期が異なる場合があって、回収に約2カ月かかった。町内会の会長や民生委員などいろいろな人と知り合うことができたが、町内会の会報をうまく活用し、将来作る予定である「見やすい情報誌の基礎づくり」をしている。

Q まちの一人として見たまちづくりと、こういう形で関わった旭のまち、何か違いは出てきたか？

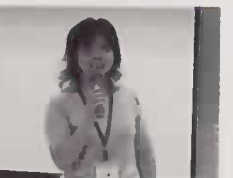
A 旭のまちは古いにもかかわらず、人間のつながりが薄いように思った。旭町? 丁目が高齢化が33.6%。活動しようと思ってもなかなか活動できず、若者を捜すのに苦労する。

Q 実際に困っている人がいても、なかなか相談できない、ことが多い。そういう方のために、調査結果が出た後の次のステップを考えているか？

A 地域の、地域通貨を使ったボランティアを立ち上げたい。また、ケアマネの専門知識と民間ボランティアの知識を見せ、高齢者をまちづくりに生かす地域貢献を考えたい。

活動テーマ 離乳食教室

group.5 「トマトの会」—食育を考える地域活動栄養士の会—



まちづくりは元気じゃないとできない。元気な子どもを育てたいということで、母親に喜ばれる離乳食教室を開催。参加者へのアンケートでは、「このような教室にまた参加したい」と100%の人が答えた。助成金を頂き、やりたいことが決まっていたので、どうやりくりするかが大変だった。募集や宣伝をするために、どういところへ行っ、どうい人に、どうお願いしたらいいかなど、いろいろなことが勉強になった。

Q 離乳食を勉強したいと思う人は限られていると思うが、そういう人につまぐ情報を伝える工夫や、活動を知らせる宣伝の方法はあるか？

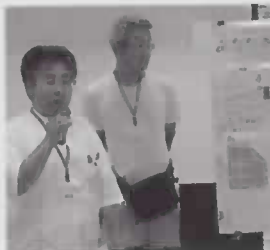
A 5月に小学校就学前までに対象を広げ、おやつや食事に限らずのイベントをした。また幼稚園にも話しに行っ活動を広げている。宣伝は、新聞掲載や、ポスターを貼るほか、「ボランティア」で、こういう活動を広げたい、ということを書き込んで話したので、協力していただけた。

VOICE ●傍で見ていても講座の回数が増え、さらに別の団体とつながるなど、活動が広がっていく様子が見え、頼もしい。



プレゼンテーション

「まちづくり一歩前へ」 コース



活動テーマ

ぶらっとうち(公共掲示板)あなたの書き込み応援します!

group.5

特定非営利活動法人
ハート・リンク・
コミュニティ

高知県の公共掲示板「ぶらっとうち」の書き込みを支援していくことにより、人々の情報発信力のお手伝いをするというのが事業趣旨。当初の目的では、IT社会で、情報技術を使う人と使えない人の情報格差をなくしたいということだった。その後、weblog(ウェブログ)という簡単なホームページを作る技術に注目し、後半はこちらの普及に努めた。いろいろなグループのまちづくり活動や広がり、このウェブログを活用してもらう動きとなっている。

意見交換

会場 ウェブログをどのように普及させていくか?

団体 はりまや橋商店街の中のサロンと、喫茶「Café & Lunch げん・き」にて、毎週金曜日、パソコンで手ほどきしながらやっている。その成果として、安田純平さんと呼ぶ現地報告会を広報手段として、ウェブログを活用して行った。こういった人と人をつなげることや、講演会を知らせていくことは、ウェブログがあったからできたことと思う。コストもソフトもいらない。インターネットにつなぐ環境とパソコンとやる気があれば、1時間でできる。



活動テーマ

公園を拠点とした、
地域福祉活動の活性化を
目指して

group.1

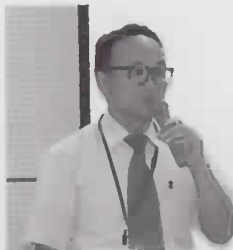
平田団地公園愛護会

事業計画はすべて予定通り消化し、目的を達成することができた。事業で実施しているイベントや祭りの行事は、行事そのものを単なる目的として楽しむものではなく、「地域活動活性化」という最終目的を達成するための、ひとつの有効な、かつ大切な手段として捉えている。そういう位置付け、存在価値の認識が精神的にも強い支えとなり、自信をもって事業を推進することができた。また、これらの事業推進の過程で、住民の希薄な連帯意識を強め、良好なコミュニケーションを図ることができた。

意見交換

会場 支援組織の中での有志の団体活動としては、非常に先駆的な活動をしていると思う。次の資金源で何か朗報があったようだ?

団体 愛護会を50人規模の会員に増やし、会費制会員の導入制度も検討していたが、2年間の実績に基づいた児童会の参加者、大人の参加者などを個別に回り、全員に加入していただいて、資金も5倍となった。自治会にも把握していただいて、全面的に支援してくれるということになり、資金も得ることができたので、今後は自治会の会費でまかなっていこうと考えている。



活動テーマ

高齢者の介護予防・痴呆予防の為に「いきいき生活と
ゆうゆう菜園」

group.6

NPO法人 訪問理美容
ネットワークゆうゆう

高齢者や地域のひととのネットワークづくりを目的に始めた「ゆうゆう菜園」。良かったことは新会員が増え、会報誌を作ることができたこと。四国銀行全店で配ってもらったり、老人福祉施設での話題づくりもできた。また、美容室でのカットの際、お話して賛同を得ることもできた。残念だったのは、畑で種をまく時、草を引く時、誰も来てくれないこと。収穫時のように家族全員で来てくれると嬉しい。「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」東郷平八郎さんの言葉を念頭に、今後は人づくりを課題としたい。

意見交換

会場 会員の年齢層は?

団体 会員が増えて18名となり、うち7名が65歳以上。

会場 人がなかなか動かないという現実的なところは身につまされる。根強く活動し、お年寄りが元気に生き生きできるように継続して欲しい。

会場 JAに作り方など聞いたことはあるか?

団体 一番始めに掛け合ったが、実はJA自体が貸し農園をやっている。福屋さんから個人的に教えていただき、みんなで勉強会を開いたが、環境と時間的なことで困った。

会場 学校と一緒にやることもできるのではないかな?

団体 県にも何度か行き、了解はいただくが、答えが返ってこない。今年も頑張る。



大人の秘密基地「かくや姫を竹やぶの中に造り、「触れした。地域との交流として、が2回に分けて約100名、炭布では、「ご飯に入れて炊くとベツがいても家が全今後は、「この山には国づくひょんなことから一宮神社という神話があるので、そしたい。

意見交換

会場 今後の事業収益としますか?

団体 ボランティア活動な安い価格で提供した

会場 「かくや姫のお宿」へ

団体 9月、10月ぐらいが、

会場 建物の管理、維持を、

団体 里山の管理は鍵を3行く。完成間もないみんなが家具などをり良いものにしてい



2月22日(日)、「地域に広テーマに、追手前高等学校252名の中、<第1部>サイド、<第2部>障害児の知草養護学校の家庭・学校・人に発表して頂いた。また風亭昇輔さんを迎えての「さの田辺鶴英さんの「介護講談」楽しく聞けた」と好評を得た。

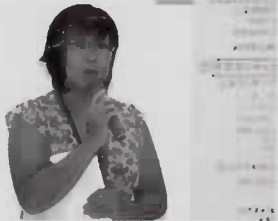
意見交換

会場 風雨の強い日だったこの催しで、何か成

団体 報道関係にも後援しは他に行事が多く、芸術ホールに障害児のため、保護者の参加もの足りなく感じて通学、学習協力のた児の付き添いをしてぼってやらない時に、ランディアが指導をたらしている。

活動テーマ

炭焼き情報ネット館



活動テーマ

橋本知事と平井雷太氏の公開インタビュー「大人が学習者でありつづけることで子どもたちは多くのことを学ぶ」

group.3

はっぴーねっと

子育て、教育、場づくりを中心に活動。橋本知事と教育研究家の平井氏との講演会、公開インタビューを行った。ビデオは約30本を実費購入してもらうことで、製作単価を下げ、15の公共施設に無料配布した。反省点としては、他イベントの事前調査と、送迎手段を考えたチラシ作り。また教育委員会の後援があったので、学校での配布をすれば良かった。ビデオの活用方法として、ビデオに出てきた話題『土佐の教育改革』について話し合う会を開いたとの意見をもらった。月刊タブロイド紙には3ページ掲載した。

意見交換

- 会場 ビデオの中身はどのような構成で作ったのか？
団体 内容は知事と雷太さんの対談、会場からの質疑応答で2時間もの。
会場 新しいグループとの接点と、ネットワーク化のようなものは芽生えたか？
団体 子育てに悩む人たちが何人かグループに入りたいとのこと。また9月から月1回、定期的にまちのゲストを呼んで、お話を聞く会をコーディネートしたい。その中でチラシを作れるようになったり、コーディネートができる人が育てばいいと思う。まちづくりという点で、そういう人の育成を自分たちでやってみたい。

活動テーマ

設立10周年記念事業「できる時に、できることを、無理せず、楽しく」

group.7

特定非営利活動法人 地域サポートの会 さわやか高知

「げよう支えあいの輪」をの芸術ホールで参加者さわやか高知の活動のすり子育てに焦点を当て、高地域を結ぶ会の保護者6<第3部>高知出身の春わか寄席」、女性講師は、「とても分かりやすく、

が大変多い参加者だった。果などあったか？

でもらっていたが、この日取材はゼロだった。また、を運んでくるのは困難が少なく、自分としては、いる。この催しのお陰で、めに、学校にいる間、障害者ののだが、掃除を皆がさ教員に代わって、うちのボするなど、教育的効果をも

意見交換

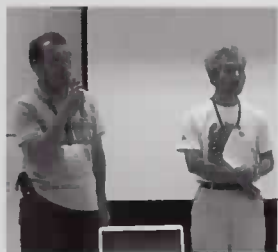
- 会場 助成資金の主な使途が軽トラだったと思うが、活用しているか？
団体 2つの農園の運営に役立っており、農機具、有機肥料の運搬のため、有効に使っている。保険、税金など大変だが、平成14、15年と、土佐市から100万円ずつ委託事業を請けている。それを非営利の方に回し、人件費は提供という形をとって運営している。
会場 障害者に畑の中へ入ってもらうために、どのようにしたらよいか？
団体 車いすが入るには舗装が必要。また畝を腰ぐらいの位置まで上げなければならない。今後の課題として考えていきたい。

活動テーマ

地域の未利用地(障害者施設空地)を活用した機能回復、バリアフリー、循環体験の三位一体農園整備事業

group.8

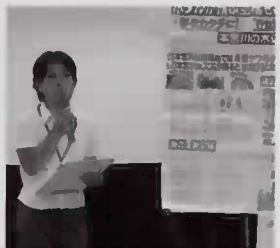
NPO法人 ゆうきりサイクル高知



生ゴミを堆肥にして畑に返す運動をしている。高知市池にある障害者施設「アドレス高知」の土地約200㎡をお借りしての畑づくりと野菜づくり、施設の障害者の機能回復、循環系を循環させるのが目的。実施の効果として、25名ほどが集まり、園芸療法の研修会を行った。残念だったのは、車いすで入れる畑になっていなかった。障害者が参加できなかったこと。また、施設での循環系がうまくいっていない。地元の2つの小学校でニュースを配布し、何人かの家族が来られたが、発行回数が少なかったと思う。

意見交換

- 会場 助成資金の主な使途が軽トラだったと思うが、活用しているか？
団体 2つの農園の運営に役立っており、農機具、有機肥料の運搬のため、有効に使っている。保険、税金など大変だが、平成14、15年と、土佐市から100万円ずつ委託事業を請けている。それを非営利の方に回し、人件費は提供という形をとって運営している。
会場 障害者に畑の中へ入ってもらうために、どのようにしたらよいか？
団体 車いすが入るには舗装が必要。また畝を腰ぐらいの位置まで上げなければならない。今後の課題として考えていきたい。



活動テーマ

ホタルが飛ぶ 蛍橋をめざして！

group.4

本宮川の水辺と蛍の会

サティの駐車場の掲示板はよく見える場所にあり、俳句やささまざまな活動の掲示をしている。2月29日(日)には本宮川の一斉清掃をし、ホタルの様子を撮影した。水車は6月1日(火)に地元の大工さんがボランティアで建ててくれ、コトコト動いている。6月6日(日)にホタル祭りをサティの駐車場で行ったが、ポスターは国際デザインカレッジの学生さんが作ってくれた。このホタルの活動は、旭の一種のお祭りとして定着しつつある。いろいろな人たちが参加し、輪が広がっている。

意見交換

- 会場 ホタルの様子はどうだったか？
団体 雨だったがホタルは飛んで、大変きれいだった。100匹飛ばしたが、5月20日ぐらいから6月の半ばぐらいまで飛んでいた。近所の人たちがすごく楽しんでおり、ホタル祭りの日は感動的だった。
会場 今回、都合で<あさひのわ>の方が代理発表されたが、このように他団体との交流が生まれたことも大変よかった。
会場 来年ホタルが飛ぶ時期にはマスコミに連絡し、知らせてほしい。市内の身近なところで、ホタルが見られるということは、もうないことなので。

活動テーマ

YAブックガイド 『よんどく!?』増補改訂版 作成出版

group.9

特定非営利活動法人 高知こどもの図書館



助成金は印刷費として支払い、5月末に完売した本の売り上げにより、残金の支払いも終わることができた。まちづくりは人をつくるところから始まる。自分を表現する力やコミュニケーションを図る力、そのための言葉を育むためのひとつの方法として本がある。本にいろいろな形で親しむことで、中学、高校生たちにも面白い本があることを知らせ、そこから自分の感性を育ててもらい、ゆくゆくは自分の住む環境のことを考えるようになってほしい。その最初の小さな種として、このブックガイドを作った。

意見交換

- 会場 徐々に輪が広がっているようで嬉しい。今後の展開は？
団体 開館までの流れと、その後5年間の活動を1冊の本にまとめ、来年5月から7月の間に出刊する予定。
会場 購入に関する営業努力の軌跡のようなものはあるか？
団体 どこに行く時にも『よんどく!?』を持って行く。大変好評で「また買いたい」という人も増え、出版社に版權を売って、広くみんなが買えるようにしてほしいとの要望もあった。ロコミはずごい。初版を中学校、高校に無料配布したという捨て身の戦法が、次の440部の営業につながった。



① 当ファンドの助成金を受けてよかった点は何ですか？

- 会の目的である事業ができた
- NPO 団体として何か催しをする場合の講師料を、いつも低額に抑えなければならなかったが、一応の経費をお払いすることができ、ありがたかった
- 15年度は助成金以外には主な資金がなかったため、助成金を資金源として、一般の会費制による会費を募ったところ、全員がこれに応じてくれた
- 安心感と責任感ができたこと。名もなく、力もなく、経験もなかったため、ファンドの名が使えることは安心感を得られた。責任感はお金を頂いているので、でたらめなことではできないという気持ちであった
- 活動拠点ができて、活動内容や事業が広がり、交流・ネットワークが可能となった
- 人と交流しなければならないことが、自分の弱点を強くできる。限られた期間中に目標を達成する。成果を出す。大変なことだが、立場が違って、みんな頑張っていることが勇気となる
- いろいろなまちづくりの型があることを知ることができて良かった。自分たちのやりたいことを見直し、まとめる機会となった
- 資金がなくても「手づくり作品展は開催できるだろう」と考えていた。でも、準備して少しは必要ということが判明し、「タイミングよく」当ファンドの資料が手に入り、本当に助かった
- 「はじめの一歩」だったので、何も分からない時点から始まり、どのようにしたら自分たちの活動ができるかということが分かり、良かった

② 公開審査会で工夫したらよい点について、ご提案がありましたらご記入下さい。

- 初めて参加したが、公開というのはとてもいいと思った
- 発表者にはずいぶん年齢差がある。3分のプレゼンは厳しい。ハンディーがほしいところ。もし3分間のプレゼンで全体の1/3くらいしか発表できなかった場合、大事なところは発表せずに終わる。形式すぎると思う
- 審査基準が分かりにくい所があり、活動経費を考える時に具体的な項目が分からなくて悩んだ
- 公開にしない方がいいのではないかと思う。採点方法は良いと思う
- たった3分だが、ものすごくドキドキする。ドキドキしないで済む方法は？あと1分とか、20秒とかのプラカードは何とかならないだろうか？

③ 中間・最終発表会で工夫したらよい点について、ご提案がありましたらご記入下さい。

- 質問、意見の時間をもう少し長くしてほしい
- もっと広い会場で一般参加者が出席しやすい環境を作って、中間発表も合わせて、会員作りへのPRになれば良いと思う。運営は大変

④ 2回目のファンドへの応募はされましたか？

- ① 2回目も応募している → 0
- ② 2回目は応募していない → 8

＜応募しなかった理由＞

- 2回目応募できるとは思わなかった。2回目応募するのは、おこがましいと思った
- 第2回「手づくり作品展」は初心に戻り、何とか自分たちの手で、本当の意味での手づくり、そして手探りで、できるところまでやろう。そして第3回に向けてのスタートとして、初心に戻ろうと思った
- また今後、応募できるような活動をしていきたいと思う
- できるだけ多くの団体が、助成を受けることができるようにしてほしい
- 1回目の活動から得たことを実行するためには、もう少し基礎作りが必要（例えば、どこに誰が住んでいるのか、という住民マップを作ることなど）
- まず1回目をキチンと終了しなかったため、来年応募の予定
- 一応期間内に応募はしたが、結局取り下げた。その理由は第1回公開審査会の時、最後の補足説明で、ようやく4票を得て、何とか合格にすべり込んだ苦い経験がある。更に委員長、副委員長の信頼がないのに、第2回へ応募しても合格は困難だと思った。なぜ幹部の信頼が得られないか。一部の中傷妨害が働き、それが取り上げられた結果？と思う

⑤ その他ご自由に、お気付きのことがありましたらご記入下さい。

- スタッフの方が軽々と動いて、さわやかな会合ができていた。感謝
- 各発表会はそれなりの必要性もあり、NPO側にとっても他団体の活動を知る良い機会にもなっているが、日々の活動が忙しい団体にとって、3回はしんどい
- お陰様でこの1年間充実した行動がとれた。期間中は、言われなき中傷妨害を受け、会の幹部さえ志気が落ち、事業参加すら儘ならぬ事態もあったが、翌年8月のイベントには延べ130人の児童父兄等が参加し、自治会幹部から「大盛況で良かったですね」と励ましの言葉をもらった



① 最終発表会を何で知りましたか？

運営委員会からの案内(9) 新聞(0)
 ホームページ(0) 知人からの口コミ(1)
 センターだより「えぬびいOh!」(2)
 その他(4)→<発表者(1)・無回答(3)>

② 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか？

100%(4) 88~90%(2) 80%(6)
 60~70%(2) 無回答(2)

100%

- 細かい気配りと洗練された運営ぶりに拍手
- 雨にも負けず、よくやったと思っている。その割に痩せることはなかった
- 活動を通じて、それぞれのグループが育っていることが伝わってきた
- 公開審査会を見て、今回の最終報告会に参加した関係で、各団体の成果がとてもよく見えたことが良かった。席の配列（委員、一般、発表者が一緒）も良かった

88~90%

- 他団体の発表から、今後の参考になることがたくさんあった

80%

- 満足しているが、幅広い団体の発表なので、十分には意見交流ができなかった
- 発表前は（他団体の）発表内容が耳に入らないので、ゆとりをもって聞きたかった
- 一般の人にももう少しアピールして、人数がもっと増えると良い
- 3分間にまとめる工夫が良かった

60~70%

- まちづくりにつながっているところもあるが、あまり拡がりを感じられないところもあった
- 会場でインターネットが使用できないために、きちんとした発表ができなかった
- もう少し時間が欲しい（せめて5分）

③ 参加されたあなたのお立場を教えてください。

発表者(8) 発表団体の一員(4)
 まちづくりに関心のある一市民(3) 行政職員(0)
 専門家・コンサルタント(0) 取材(0)
 その他(1)→学生

④ あなたの年代を教えてください。

20歳代(1) 30歳代(0) 40歳代(6)
 50歳代(6) 60歳代(2) 70歳代(1)

その他お気づきの点があれば、ご記入ください



- 発表、質疑応答を3分間ずつ時間を決めてくれていたので、内容も分かりやすくまとめられて良かった
- 中間発表を聞いていないので、最終発表会で分かりにくい部分があった
- 1年間、公開審査会から参加し、毎回学ぶことがあった。また参加させてもらいたい
- 面白かった。みんな頑張っているということがよく分かる。頑張っている人を見ると楽しい
- 一般の人にもっと知ってほしい
- 今回、参加者が少なかったのが残念
- プレゼンテーションのやり方の工夫、審査員のプレゼンテーションの向上が必要
- まちづくりファンドのような助成事業の予算枠を増やして、市民団体が取り組むきっかけが出てくればよい
- 審査員の質問が分かりにくいこともあったので、もう少し発表団体が話したらよいことの引き出しを図ったらよい
- 「まちファン」の発行は大変内容が充実していて良い
- 模造紙の発表は、見ている人に分らなければ何にもならない（字が小さい、ゴチャゴチャしている等）ので、発表者側の考察が必要
- 地域福祉の活動内容と発表の中身がズレていて、せっかくの発表の場が残念であった
- 運営委員からの質疑で、活動の中身がより伝わった
- 活動の問題点、課題をメインに話してくれた団体報告は、為になった

交流がはじまってきた

木下：最終発表会に参加して、「はじめの一步」コース「あさひのわ」の方が、「本宮川の水辺と虫の会」の代理発表までされたことに感動しました。まちファンをきっかけに交流が始まったようですね。個から組織となり、組織同士の交流が生まれ、それがまた地域で形になっていく。それがまちづくりの始まりだと思えます。

半田：他の助成制度と比較してもこの「はじめの一步」コースは、活動を起こす上でとても取り組みやすいコースだと思えます。また、このファンダに応募する団体の活動は多彩ですが、それだけ「まちづくり」の幅の広さを感じました。高知はイベントが多いという話が出ていましたが、そこから人との出会いが生まれ、てくる可能性もあると思えます。

山崎：市民活動は他者からの評価に慣れていないので、否定されたように受け取ってしまいがちで、今後こういう場を通じて慣れていくと良いですね。

期待できる若い力

半田：二年目の応募について、私は若い力が出てきたという印象をもちました。「地域に関わる」という、大学の取り組みも変わってきているようですね。

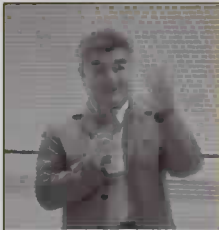
山崎：活動を今後はどうつなげるかというビジョンを明確に出すことが大切です。来年度以降どうするかをうまく説明できる団体が少ないように思いました。

半田：申請団体には資金の継続性に不安がある団体もありました。学生は卒業など生活環境が変わる中で、活動の継続性が不安でしたが、最終的には企画内容で審査しました。



高知県ボランティア・NPOセンター
主任 半田雅典

運営委員の紹介



運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

私は、高知に来ることが大変楽しみです。それは、まちづくりファンダに応募する市民活動が極めて高知らしさを持っているからです。「イベントが好き」、「思案型より行動派」に、今回は「元気な若者が多い！」が加わりました。



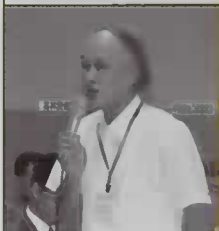
副運営委員長
藤塚 吉浩
(高知大学助教授)

当初、はじめての試みに期待と不安があり、まちづくりにとって時間をかけることの重要さを感じました。1年たち、助成された団体の活動に成果が見られたことはたいへん喜ばしく、微力ながらもお手伝いできたことを光栄に思います。



運営委員
海老塚 和秀
(五台山竹林寺住職)

地域にしっかり足がついた活動をしている人たちがたくさんいることに、驚きと頼もしさを感じました。活動は遠慮なく、高知をもっとよくしたいという思いは、一緒。ファンダを通じてそんな同じ思いをもつ人たちがつながっていけば、高知のまちづくりはもっともつと面白くなりそうです。



運営委員
木村 重來
(元高知市市民生活部長)

「新しい市民」の誕生。各グループの皆さんの地域での活動を拝聴させていただき、現実のものとして芽生え始めていることに勇気付けられました。成果の発表を楽しみにしています。



運営委員
玖波井加代子
(元よさこい高知団体ひとりひとりとくボランティアコーディネーター)

審査だけでは運営委員としての役割を果たせなかったと反省。発表会で会うだけの「点」ではなく、私たちも団体の活動に参加したり、共に話し含んだり「線」になるような行動をすることが必要です。「線」になって初めて「流れ」となるのですから。



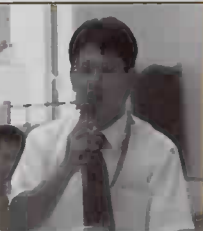
運営委員
半田 雅典
(高知県ボランティア・NPOセンター)

ここ数年、市民の公益的な活動は確実に広がり層も厚くなっています。このまちづくりファンダに関わり、皆様の知恵と情熱と行動力に励み、改めてそのことを実感させていただきました。



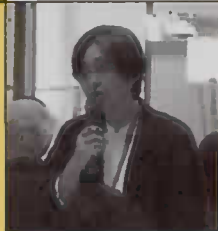
運営委員
田岡真由美
(職相愛)

助成を受けられた皆さんの一年の成果がお聞きできるのを楽しみにしております。はじめてのファンダ助成ですので、今後「高知市まちづくりファンダ」をどのように進めていくかの参考にしたいと思います。よろしくお願ひします。



運営委員
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

運営委員をこの1年務めさせて頂き、改めてまちづくり活動の厳しさとおもしろさを感じました。今後、まちづくりファンダが、「広がりのあるまちづくり＝人のネットワークづくり」という意味で、行動（熱意）を意識・継続につながるような「まちづくり」のきっかけの場になればと思います。



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

この1年間、日常生活から見えてくるシーンを思い浮かべ、関わってきましたが、各団体の方から多くを学び、まちづくりは人と人との出会いが原点であると実感しました。まちづくりの小さな点が線となり、面となり、災害時の安全安心なまちに通ずると感じました。

公益信託 「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場になることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一步」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円（活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成）

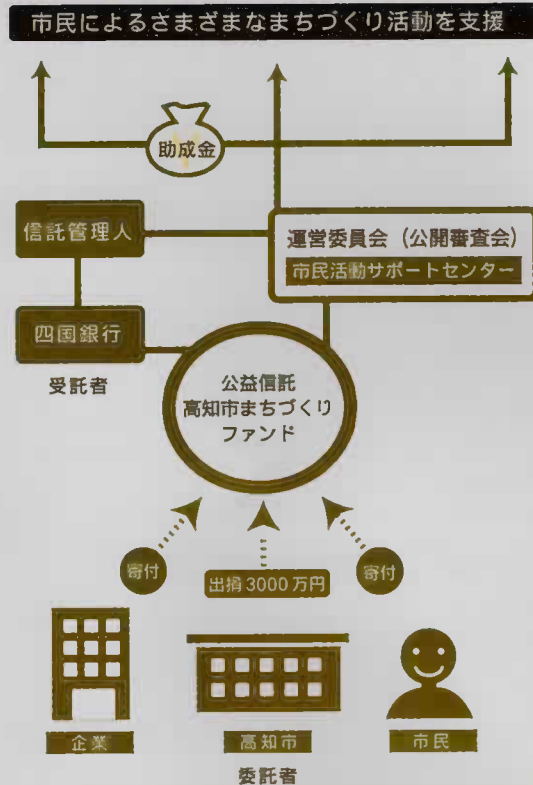
審査方法 書類審査で助成先を決定します。
助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をして頂きます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 活動事業費の $\frac{3}{4}$ 以内で、上限30万円。

審査方法 公開審査会において、応募団体は活動の内容について発表をして頂き、公開審査で助成先を決定します。



四国銀行コメント

株式会社四国銀行
営業統括部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていけるためのお手伝いができるよう努めていきます。事業の実施に際しましては、市民グループのみならず皆様のご協力をお願い申し上げます。

私たちもお手伝いしています。

NPO 高知市民会議コメント

高知市市民活動サポートセンターの運営主体

高知市市民活動サポートセンターで、センターの運営や市民活動を活性化させる様々な事業を実施しています。皆様の思いの実現と、今後の活動を大いに活かすことができますよう、まちづくりファンドの事務局をしっかりとっていきたいと思います。市民活動に関することでしたら、いつでもお気軽にご相談下さい。

まちづくりファンドは、皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設に当たり、高知市から出捐（しゅつえん）された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆様のご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社四国銀行
営業統括部 信託担当

〒780-8605

高知市南はりまや町1丁目1-1

電話：088-823-2111（代表）

088-871-2178（直通）

FAX：088-824-0431

高知市市民活動センター

市民に利用して頂き、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を特定非営利活動法人「NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

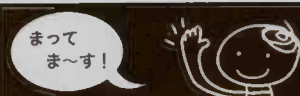
まちづくりファンド今後の予定

中間発表会は、どなたでも参加することができます。助成を受けた団体や関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。

場所は高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

2004年度中間発表会
2005年1月29日（土）

2004年度最終活動報告書提出〆切り
2005年7月20日（水）



まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、中間発表会の後になります。

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL：088-820-1540 FAX：088-820-1665

E-mail：npokochi@siminkaigi.com

【URL】http://www.siminkaigi.com



古紙配合率100%再生紙を使用しています



この印刷物は、環境に優しい大豆インキを使用しています。